

2015年度 活動報告



組込みシステム産業振興機構

Embedded System Industry Promotion Organization ESIP

(教育事業：第1部会) 2015年度活動報告

平成27年度 事業計画

● 第8回組込み適塾を通じた「適塾精神の継承」と「組込み適塾のブランド力強化」

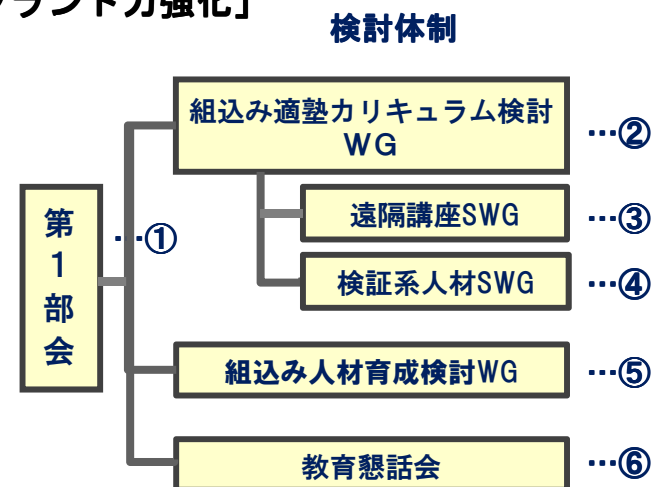
- ・プロモーション活動の強化。【⑤】
- ・第8回組込み適塾の運営とカリキュラム刷新。【②④】
- ・遠隔講座の本格的運用と効果検証。【③】
(反転講義など有効な講義方式の検討、臨場感の向上、遠隔地拡大)

● 部会活動を通じた自由に議論が出来る”場”の提供

- ・講師も含めた組込み適塾関係者との企業の枠を超えた交流【①】
- ・スタッフ会の拡大・展開による裾野を広げる活動【①】

● 教育懇話会を通じた組み込みシステム産業界への貢献

- ・IoT志向人材の検討【⑥】
- ・組込み人材育成や組込み適塾中期計画に向けた検討【⑤】



2015年度 実績

(実績①)プロモーション強化により受講生増加、受講生・派遣企業から好評獲得、遠隔講座拡大、IoTカリキュラムの新設を行うことができ組込み適塾のブランド力強化に貢献した。次年度に向け、環境整備やマニュアル整備活用により、遠隔講義の更なる改善を図る。

- 一地域ごとのプロモーション戦略に沿って、イベント展示、メルマガ、説明会、新聞(Facebook)掲載などを実施することで、第8回組込み適塾には前回より約1割多い103名が受講し、新たな企業・地域(広島・三重)からの受講者も増加した。
- 一適塾参観(のべ28名が参加)や活発なワーキング活動を通じて既存講座の見直し、更にはIoT人材育成に向けたカリキュラム化を実現した。
- 一岩手、宮城、愛知(試行)の3会場で全コースの遠隔講座を実現した、また、講義面、運用面、設備面での遠隔要件を整理し、今後の拡充に向けた環境検討・マニュアル整備を行った。更に、大阪大学前面協力の下、次世代遠隔講座システムを試行導入し、論文投稿した。

(実績②)講師会、講義参観、同窓会で、活発な意見交換を行うことで、企業の枠を超えた交流の場を提供すると同時に、検証科目改善、適塾運営見直しに繋げることができた。次年度に向け、運営面の改善により同窓会の更なる活性化を図る。

- 一講師会(4回実施)を通じて講義スタイルや遠隔環境の改善について、更には謝金体系などの運用面の改善についての意見交換を行った。
- 一適塾開催期間中に、講師・部会参加者・受講生(合計54名)との情報交換会(講義参観)を実施し、企業の枠を超えた“交流の場”を提供した。
- 一適塾卒業生の同窓会を2回実施し、卒業生間の交流を図ると同時に、IoT時代の人材育成要望に繋がれたが、参加人数が少なかった。

(実績③)教育懇話会、人材育成検討会、ステップ4検討会によりIoT時代の人材育成方針策定、IoTカリキュラム新設を行った。

次年度に向け、教育懇話会、人材育成WG、適塾検討WGのシナジー効果を更に発揮させ、カリキュラムの改善・新設に繋げる。

- 一会員企業様へのIoT時代の人材育成に関するアンケート調査・検討や中期計画検討で、人材像・ビジョン・要求されるスキルなどを策定した。
- 一セキュリティやIoTをテーマに教育懇話会を4回実施し、カリキュラム検討に活かし、IoTカリキュラム新設に繋げた。

(ビジネス支援事業:第2部会) 2015年度活動報告

2015年度 事業計画

1. 組込み開発企業展示会の継続展開

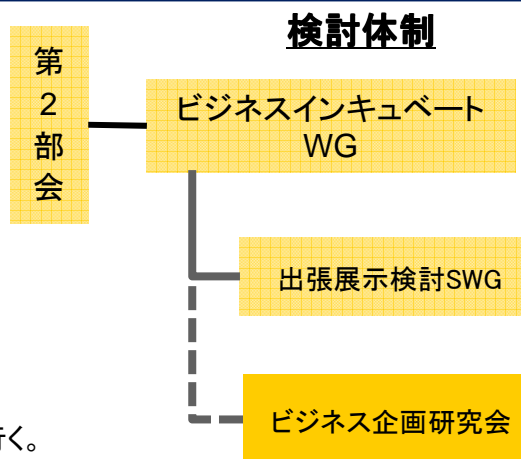
- 関西圏での開催による市場拡大や新しいパートナー創りを目指す。
- 出展企業間、出展企業-展示先間の連携を進化させ、双方向での情報交換や、新たなコラボのきっかけづくりを促進させるべく、施策をブラッシュアップする。

2. オープンイノベーションの実践に繋がる場の提供

- プライベートセミナー等で、シーズ・ニーズの最新情報を展開する。
- 会員同士のSWG(或いは研究会)等を通じて実ビジネスへのアプローチをサポートする。
- ビジネス企画研究会を継続して推進し、ビジネスの実現性を高める「企画の質」、「企業コラボのフォーメーション」の研究を進め、新ビジネス創出をはかる。

3. メンバー間の情報交換の促進

- メンバー企業の強みの共有を進めオープンイノベーションを創出しやすい情報基盤を提供する。
- HPで課題共有したメンバーがBBSを通じて集まり、リーダーのもとで集中して検討し結論を出して行く。



2015年度 実績

(実績①) 関西での開催による市場拡大、新パートナー創りを目指し、組込み企業開発展示会を2回開催。次年度、更なる施策のブラッシュアップを図る。

- 第9回 ダイキン工業株式会社滋賀製作所(草津市)にて開催。21社・団体が出展し、約220名の来場があった。
新たな試みとしてダイキン工業から戦略プレゼンをしてもらうことにより、出展企業がダイキン工業の方向性を理解した上で展示会に臨めた。
- 第10回 西日本電信電話株式会社IoTラボ(大阪市北区)にて開催。初のキャリアでの開催。展示先と連携し展示会の1ヶ月以上前に出展先部門の見学会を開催することで、出展内容について十分検討できるようにした。開催時期は当初予定より遅れた。
- 難航していた出張展示先依頼について、関係各位のご協力を仰ぐなどすることで、次年度以降についても候補が見通せるようになった。

(実績②) プライベートセミナーの開催、ビジネス企画研究会を通じ、オープンイノベーションの実践に繋がる場を提供。次年度に向け、新たな研究会発足のきっかけづくりの強化を図る。

- プライベートセミナーを4回開催。テーマは「組込みセキュリティ対策の事例」「社会インフラ検査・計測」「生活支援ロボット」「ヘルスケア・ロボット」。
第4回は、研究会発足のきっかけづくりの強化策として、「講義+ワークショップ」という形式とする事により、参加者間の活発なコミュニケーションの場を提供した。
- 年度当初にビジネス企画研究会の年間計画を立て、計画に従って研究会を開催した。
- 新ビジネス創出に向けた「企画の質」、「企業コラボのフォーメーション」の研究は進めることができなかった。

(実績③) 第2部会メンバー間の情報交換促進〈開発支援と共通〉。次年度に向け、課題共有の仕掛けづくりを検討する。

- メンバーの保有する強み技術、製品等について紹介する場を設け、10社から各社の情報共有の促進を行ったが、オープンイノベーションを創出するには更なる仕掛けが必要となる。
- 機構ホームページ内に専用BBSを立上げ、会員企業間の情報提供等は行ったが、課題の共有、検討にまでは至らなかった。

(開発支援事業:第2部会) 2015年度活動報告

2015年度 事業計画

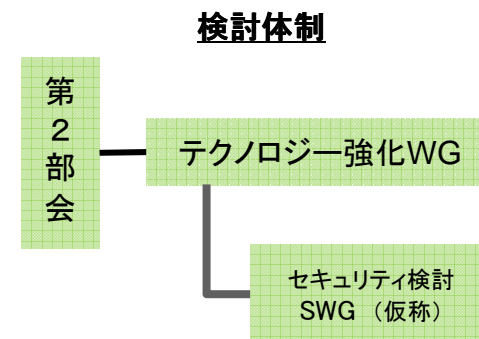
1. 組込み産業でのセキュリティへの対応

ーセキュリティ対策

IT分野のノウハウ、事例を研究し早期立上げを図り、組込み産業での対応を検討する。産総研の支援を受け、組込みシステムのセキュリティについてガイドラインの研究・検討を進める。

2. 強み獲得のきっかけづくり

- ー産総研見学会でのニーズ・シーズ調査や新たな(産学官)共同研究の枠組み検討等による、強み獲得のきっかけづくりを推進する。
- ー機構会員が集まった強みづくりの活動促進(新研究会の発足の推進)や、大学等との連携によるものづくり力強化に繋がるイベントなどを検討し推進する。
- ーヘルスケアの現場から取得したニーズから、ビジネスにつながる研究活動を推進する。



2015年度 実績

(実績①) 組込みセキュリティの取り組みとして、産総研の支援のもと、セキュリティSWGを設立。次年度に向け、具体的な活動を検討中。

- ー(昨年までのセキュリティをテーマにしたAIST-ESIP合同セミナーに加え、)第1回プライベートセミナーを「組込みセキュリティ対策の事例」のテーマで開催した。これらのセミナーがセキュリティSWG設立検討会の立ち上げにつながった。5回のセキュリティSWG設立検討会で議論を深め、「セキュリティSWG」を発足させた。(2016年1月)
- ーガイドラインの検討までを行えるようになる為には、まず参加者のレベルを合わせるが必要となり、産総研のセキュリティ用語集の作成に参画した。その一環として個社の対策実施状況ヒアリングを産総研に実施頂いた。その共有可能な成果物は機構会員に公開する。あわせて参加企業からの話題提供、産総研からの情報提供を実施。来年度に向けて、今後の具体的な活動内容を検討中。

(実績②) 強み獲得のきっかけづくりについて、産総研との連携による見学会を実施、「介護施設」「病院」への訪問は難航。次年度に向け、取組みを見直す。

- ー新たなコア技術獲得や新たな共同研究のきっかけづくりを目的として、産総研関西センターの招待制見学会《テクノブリッジフェア関西》に参加。パネル展示やラボツアーによる見学に加え、産総研幹部の方々との意見交換を行い、機構を介した新たな共同研究創出の協力体制を確認した。
- ー機構会員が集まった強みづくりの活動促進、大学との連携によるものづくり力強化に繋がるイベントについては手を付けることができなかった。
- ー2014年度に引続き、「健康寿命を延ばす」という課題に絞り、今年度は「介護施設」「病院」の訪問を計画したが、施設の性質上(施設の運営に迷惑がかかるので)、訪問ができなかった。結果、ニーズ収集不足のため研究活動に繋げることができなかった。

(企画・広報事業) 2015年度活動報告

2015年度 事業計画

1. 競争力強化に向けた戦略的情報発信

- － 競争力強化に向けた「強みづくり」を狙い、産総研と連携して、注力分野である「ロボット」「エネルギー」「ヘルスケア」、ベースとなる「安心・安全」やIoTをテーマに合同セミナーにより情報発信。
- － コア技術獲得や新たな共同研究のきっかけづくりのため、産総研見学会を本格的な施策として企画。

2. 地域間連携強化による各事業基盤拡大

- － 第5回「全国組込み産業フォーラム」を名古屋で開催。中部地区との連携強化を図るとともに、フォーラムの定例化を目指す。
- － 関東・九州など他地域との連携を模索。

3. 会員協同の場としての研究会活動の活発化

- － 近畿経済産業局と連携した補助金・知財関連の情報発信。
- － 研究会成果と部会施策を連携させ、会員協同による新ビジネス企画を試みる。

4. Step4へ向けた中期計画方針検討

- － 企画広報部会にて中期計画検討。

2015年度 実績

(実績①)「AIST-ESIP合同セミナー」「産総研テクノブリッジフェア」を開催し、産総研の先進的な研究や各分野の課題・方向性に関して情報発信。次年度へ向け、セミナーの戦略・企画、運営の強化を図り効果的な情報発信に取り組む。

- － 産総研情報技術部門と連携してAIST-ESIP合同セミナーを4回開催し、のべ130名参加。アンケートでは参加者からは好評を得たが、参加者数が減少傾向にあり、今後、セミナーの聴講に留まらず参加者の交流も視野に入れたセミナー戦略・企画の強化など、より効果的な情報発信に取り組む。
- － 産総研の招待制見学会「産総研テクノブリッジフェア in つくば」に12名が参加。機構向けの個別研究紹介・産総研幹部との意見交換会を併せて開催し、活発な交流・意見交換が行われた。準備不手際のため企画決定が直前になった。早期企画決定など運営に改善の必要あり。

(実績②)全国組込み産業フォーラムを開催し、地域団体間の課題共有の場を提供。組込み産業地域交流プラザは開催できず。次年度へ向け、開催地との連携の取組みを強化する。

- － 第5回「全国組込み産業フォーラム」を名古屋で開催。全国から地域団体10団体、90名が参加。参加団体間の連携施策につながった。次年度以降、16年度関東で開催決定。17年度九州での開催に向け調整中。機構会員と開催地団体との交流の時間が十分になく、今後フォーラム終了後の交流会などを企画する。
- － 関東で開催を計画していた組込み産業地域交流プラザは、準備遅れのため連携団体と内容調整できず、今年度は開催できなかった。

(実績③)研究会活動報告会に合わせ政策・補助金に関する情報発信を実施。次年度へ向け、研究会活動の活発化に引き続き取り組む。

- － 第6回・第7回研究会活動報告会にて、近畿経済産業局と連携し、経産省の政策・補助金情報を発信。次年度以降も連携継続の方向。
- － 3研究会が活動中。新ビジネス企画を試みるビジネス企画研究会が活動。新たな研究会は発足せず。今後新規研究会発足に向けて各部会施策と連携して取り組む。

(実績④)Step4へ向け、産学官連携プラットフォームとしてIoTサービス事業の創出を目指す事業活動方針案を作成し、承認を得た。

- － Step4検討会、企画・広報部会を中心に、Step4へ向けた事業活動方針を検討。事務局案を企画運営員会に答申したが見直しが必要との評価をいただく。その後企画・広報部会を中心に広くご協力をいただき、「×IoT」の取組みなどの施策を再答申し、承認を得た。また、Step4対話会で会員の賛同を得た。